シンガポール研修

教育学科　２年

1.参加目的

海外研修への参加目的は、2016 年度発表のＰＩＳＡ国際学習到達度調査では、「科学的リテラシー」「読解力」「数学的リテラシー」の３分野全てでシンガポールが１位を独占したどのような教育をして、このような結果にたどり着いたのかを知りたかった。日本は 5 位以内に入っている分野は２つとシンガポールには劣るが、良い結果ではあると思う。さらなる高みを目指すための教育とは何なのかを実際の教育現場を見て知りたかった。ＰＩＳＡの調査で１位を独占しているため、どれほど厳しい教育を受けているのかと思っていたが、よく耳にする、「詰め込み教育」に値するような教育やカリキュラムでは無かった。

2.研修全体を通して学んだこと

現代社会や世間を知るために新聞を読みなさいと、日本ではよく言われる。初日に訪れた小学校では、国語の一環として、英語の力をつけるために、新聞を読むそうだ。英語力をつけると同時に、時事問題を知る目的も含まれている。訪れた保育所でも園児が毎朝 5 分～10 分新聞を読む時間がある。読んだ際に出た疑問は先生に聞くみたいだ。保育室を見学した際に、子どもの工作したものが飾ってあった。それは「水の通り道」を表した作品だった。先生が「水の通り道について工作しよう」というお題を出したわけではない。新聞を読んだ際に園児自身が興味を持ち、自ら工作したそうだ。新聞は、子どもの探求心や好奇心を引き出すことを知り、新聞を読むことの重要さを再確認したと同時に、口で、

「読むことは大切。だから読もう」と何度も言うより、読む時間の確保をしてあげることが児童のためになると感じた。そして、保育園の時から新聞に親しみを持つことで、小学校でもスムーズに新聞を読むことが出来る事に気づいた。

小学校で特別活動や行事について聞いたところ、シンガポールは多国籍であるため、様々な国の行事を全校生徒で行う。例えば、中国の旧正月を全校生徒で祝うことも行事の一つである。また、様々な国の出身者が多いため、国際デーというのもある。多国籍であるということは、宗教も異なる、宗教が異なれば考え方が人によって違う。しかし、シンガポールでは生徒一人一人が互いを認め合い、宗教の違いを尊重しているため、中国人ではなくても、旧正月は全校で祝うなどの行事が成り立つのである。小学校を訪問したことによって宗教や多国籍だからこその問題を育でシンガポールならではの問題だと感じた。

シンガポールは前述したとおり、学力が高く国際学習到達度調査では好成績を収めている。そんな優秀な生徒を教育し、最後には「評価」というものをしなければならない。訪れた小学校の評価の仕方は授業態度や、授業に対する胃欲でＡＢＣ評価をし、テストでは評価をしないそうだ。シンガポールは小学六年生で大きなテストがあるにも関わらず、テストの結果が評価に関連しない。

幼稚園では、年長になると、小学校と幼稚園の違いについて考える。例えば、服装・鉛筆、消しゴムを使う・教科書やノートを使うなど子ども独自で答えを導き出すそうだ。園と小学校が連携を取るだけではなく、園児の意識を小学校に向けることのよって違いを

認識し、小学校へ入学してからの相違にも対応できるだろう。

3.研修に参加したことによって得られた成果

算数では、教科書に載っていることだけを習得し、問題を解き続けるのではなく、習ったことを日常生活でどのように使えるか、より実践的な授業を展開しているそうだ。また、日本では、家庭学習や宿題への取り組みが再び重視されてきている。しかし、小学校では 10 分から 15 分以上かかる宿題は出してはいけないことになっている。ＰＩＳＡの調査で１位を独占しているため、どれほど厳しい教育を受けているのかと思っていたが、よく耳にする「詰め込み教育」に値するような教育やカリキュラムでは無かったことがわかった。

先生の話によると 30 人のクラスで、塾に通っている生徒が約 20 人と半数を超えている。日本より塾に通う割合が高い。また、先生の話によると、塾へ通う子は、小学生よりも幼稚園の頃から通う子が多いみたいだ。評価をするときには、テストの結果を含まないため、テストをしなくてよいのでは。という先生方の考えがあるが、児童の親は「子どもの学力のためにテストは必要だ」と言うらしい。シンガポールの学力が高いのは教育内容やカリキュラムも関係はあると思うが、一番は、親が学力に対する気持ちがどの国よりも強いのではないかと感じた。

4.交流会

小学校では交流会があり、日本の伝統的な文化を伝えるため、「折り紙」を教えた。折り方を日本語から英語に訳して行った。実際に教えると、英語は伝わったが、細かく折る作業が子どもたちには難しかったようだ。普通の折り紙よりも、和紙に興味があったので、日本の文化に親しんでもらえたのではな

いかと思う。保育園では達磨さんが転んだという絵本を基に遊びをした。保育園児は元気に遊び、私たちと手をつなぐときも積極的だった。四年生の先輩を中心に保育を進めた。先輩は、児童の目線に合わせて話したり、ハキハキと絵本を読んだりと、保育者の夢も持つ私にとって、良い経験が出来た。

交流会では小学校、保育園どちらも生徒は社交的であった。小学生はどんな時でも挨拶をしてくれ、保育園児は、自ら話しかけてくれた。言語は異なっても、人間性や愛でコミュニケーションが取れることを肌で感じた。しかし、共通言語である「英語」は身につけなければならないと、海外研修で痛感した。